

YMCA

大阪青年



月刊 The YMCA 付録
 編集・発行 / 日本 YMCA 同盟 東京都新宿区本塩町7番地
 大阪青年 発行: 末岡祥弘 編集: 大阪 YMCA 広報室
 〒550-0001 大阪市西区土佐堀 1-5-6
 TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297
 URL: http://www.osakaymca.or.jp/
 (年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

2008年度 年間聖句

「めいめい自分のことだけでなく、
 他人のことにも注意を払いなさい。」
 (フィリピの信徒への手紙 2章4節)

大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組む平和で公正な世界をめざします。

Changing ourselves, changing community.

自己を養え 社会を養える

“対談” — 中川善博会長・末岡祥弘総主事 —

新年度にあたり、中川善博会長と末岡祥弘総主事に大阪YMCAの進むべき方向性について語っていただきました。

様々な社会課題の中でYMCAとして今最も気に掛けているところは何か？

末岡 新聞を広げても、テレビを見ても、「青少年」という言葉が消えているように感じます。青少年が持つ希望を社会・大人が語ることで少なくなつたということでしょう。特にこの4、5年はそう感じますね。青少年がどう成長するのかというよりも、端的な現象面の問題に対する処方箋をつくり、対処しようとしているのではないのでしょうか。

中川 将来に対する不安や現在に対する不信・不満を青少年は持っていると思います。

— それらに対するYMCAのアプローチはどうだったのでしょうか？

末岡 力に限りがある中で、選択と集中をしながらプログラムを通してアプローチしてきました。ただ、他の色々な団体とのネットワークキングがどこまでできたかと言われると、まだまだ弱かつたと思います。多くの人々と連帯をしていくことが取り組みの中で益々必要になると思います。

中川 それぞれの力を生かしながら、YMCAの主張をし、事業を進めていくべきです。YMCAは人の集

まり。それが願いであり、事業です。

— 社会全体を見て、青少年へのアプローチが不足しているとお考えですか？

末岡 50代や60代が考える青年の居場所と今の若者たちが考えるのは違うと思います。当事者がどう変えていくのかというところにYMCAが今後もつと関わっていかねばいけません。



中川 善博 会長

— その中で2009年度は「人の養成」がキーワードになるのですか？

中川 いつの時代もYMCAは人づくり。職業教育、英語教育、進学教育、野外教育などを通して人づくりをしてきました。社会の一員として、YMCAの願いを持った人を送り出していくことに尽きます。そのために具体的な仕掛けや仕組み



末岡 祥弘 総主事

もあつて、希望もありません。ただ発揮できる状況を見出しにくいだけ。今、

大阪YMCAは、青年たちをマスで捉えるのではなく、一人ひとりが自分の思いを表現できる場を学校やボランティアなどの形で提供しています。今後更にプログラム作りにも努力がいくのではと思います。

— 加えて、それらのプログラムを社会のネットワークとしてまとめ、力づけるというのがYMCAの大きな役割です。それをすればもっと大きい改革ができると思います。

中川 時代によってその表現の仕方は違えども、YMCAは自分を発見したり、見出す機会を提供してきました。

末岡 YMCABボランティアもスタッフも今までと同じことをしてはいけません。変えれば違う反応が出てくるはず。組織やシステムがするということより自分が行動するかどうか。これがYMCAの生命だと思います。

中川 チャレンジすることは既存のルールに乗ることではありません。新しいルールを作っていく必要があります。それは説得するデータも必要となります。そしてそれを進める強い思いが重要になってくるでしょう。

— ありがとうございます。

おわりに・・・
 他にも地域コミュニティへの働きかけや国際事業、外部団体・組織との関わり等についてお話しいただきました。紙面の都合上、青少年に関するテーマ部分のみ掲載させていただきます。
 (編集室)

地の塩

▼春4月、2009年度を迎えた。新しい年度を迎えた。新しい年度である▼入学式、新学期、新入社員の入社式など、心を新たにしているのスタートである。団体や企業によつては組織を刷新してこの4月を迎えたところもある。YMCAも新しいプログラムを提供して2009年度の活動が始まった▼さて、1980年代末頃から子どもの体力・運動能力の低下が問題になり、今日ではその状況が厳しくなっている。さらには、子どもたちは、少子化と学校の成績による序列社会に巻き込まれて、仲間との交わりを通して身に付けなければならぬ「生きる力」「コミュニケーション能力」等を獲得する機会も少なくなつてきている▼子どもの成長には教育が重要である。その根幹を担うのが学校教育である。次に家庭教育があるが、今や少子化や核家族化による影響からその教育力は弱体化している。そのような中で社会が担う子どもへの教育としての集団活動が大きな教育力を従来から発揮してきた▼よい指導者と素晴らしいプログラムによる集団活動は、子どもの成長や人間形成に重要な教育としての役割を担っている。そこでは、子どもたちは、仲間との自由な遊びや好きな活動をしながらか、自ら学び、考え、主体的に判断して行動できる自立した豊かな人間らしい生き方を身につける▼次代を担う子どもたちにとり、精神的・身体的・社会的・知的・情緒的等あらゆる面の成長を促すプログラムを提供しているのがYMCAである▼YMCAが提供するプログラムのゴールは、キリスト・イエスによる「愛」を学びつつ、人に対する愛と人間尊重の心を持った全人的な成長を促すことである。(俊)